

奈良市立東登美ヶ丘小学校 森田 由加
上田美恵子
中島千賀子
小川 琴代

1. 単元名 夏をすずしく快適に

2. 単元の目標

【知識・技能】

- ・住まいの主な働きや、季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について理解しているとともに、日常着の手入れについて考え、工夫することができる。

【思考・判断・表現】

- ・夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について、「持続可能な社会」の視点から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践・評価・改善することで、課題を解決する力を身に着けている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・家族の一員として、「持続可能な社会」を実現する快適な住まい方や衣服の着用と手入れについて、主体的に取り組んだり振り返ったりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

3. 単元について

(1)教材観

本題材は、新学習指導要領の(2)の「日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身につけ、身近な生活に活用できるようにする。」を受け内容C [快適な衣服と住まい] において、(1)ア「衣服の働きが分かり、衣服に関心を持って日常着の快適な着方を工夫できること」(2)イ「季節の変化に合わせた生活の大切さがわかり、快適な住まい方を工夫できること」を関連させて扱うものである。また、内容D「身近な消費生活と環境」の(2)「環境に配慮した生活の工夫」とも関連を図り、課題解決を図るようにした。

快適な住まい方では、室内の温度や湿度、空気のながれを調節することにより、室内の環境を快適に保てることを学ばせ、風などの自然の力を上手に取り入れる方法を考えさせたい。その中には、昔の人の知恵も多くあると思われる。冷房機器に頼る生活を見直させ、省エネルギーにつなげていきたい。

快適な着方と手入れでは、「暑さを防ぐ」を中心にすずしい着方を考えさせたい。また、衣服を清潔に保って快適に着るため洗たくについて知り、手入れが必要なことを理解させたい。

快適な住まい方、衣服の着用の学習を通して、身の回りの快適さへの関心を高め、その大切さに気付くとともに衣服、住まいに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てたい。さらに「持続可能な社会」の視点から自分の生活を見つめ、問題点を見出し、課題を解決する力を身につけさせたい。

(2)児童観

快適に過ごすための着方や住まい方については、第5学年で「寒い季節を快適に」の学習を行ったので、暑い季節での過ごし方については、その学習を振り返りながら対照的に捉えて考えを深められると思われる。

夏という季節を好ましいと捉えている児童は多いが、暑さそのものは好まれていないようである。また、家庭でも学校でもエアコンを使えば暑さ回避を解消できるという環境で過ごしている。環境への配慮や衣服の手入れや洗濯を意識して実践している子どもも少ないと言える。

SDGsについては、第5学年の「生活を支えるお金ともの」の単元でゴール11（つくる責任つかう責任）について触れたことをきっかけに、他の目標についても興味・関心を持って学習していた。

(3)指導観

本単元の指導に当たっては、主体的な学習にするためにSDGsの7、13の目標を提示したり、教科書のイラストをもとに自分たちの生活の問題点を出させたりすることで、問題解決（実験や実習、ワークシートにまとめる活動）の必要性を感じ取らせる。そして、対話的な学習をするために、実験ではジグソー学習を取り入れ、グループのそれぞれが実験して分かったことを伝え合ったり、アプリを活用して共有したりする活動を取り入れる。活動状況に応じて、話し合いによる意見交流やタブレットを用いた感想交流を行う。

さらに、深い学びにするために、題材の導入場面で、家庭科の窓「健康・快適・安全」について、「熱中症予防」の必要性に目を向けさせた上で、「持続可能な社会」を実現する必要性もあることに触れる。多様な視点から「夏の快適な過ごし方」を提案できるようにする。

(4)ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

有限性…化石燃料をもとにしたエネルギー消費により発生する二酸化炭素が地球温暖化や気候変動の要因の一つになっている。自然エネルギーを効果的に取り入れ、化石燃料に頼りすぎない暮らし方を工夫すること。服を手入れして長く使うことや、洗剤の量を考えて使うことで、限りある水資源を大切に使う必要性に気づくこと。

責任性…化石燃料に頼りすぎない暮らし方を意識して持続させるには自分たちの行動が大切であること。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

長期的思考力…「持続可能な社会」の視点から、自分の生活を見つめ、問題点を見だし、課題を解決する力を身につける。

コミュニケーションを行う力…環境に配慮して夏を快適に過ごす方法について意見交流を通して自分の考えを作り上げる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

自然環境、生態系の保全を重視する…エネルギーを無駄にしないで夏を快適にする方法を見つけ、自分の生活に合わせて実践することが大切である。

・達成が期待されるSDGs

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

13 気候変動に具体的な対策を

6 安全な水とトイレを世界中に

12 つくる責任つかう責任

4. 評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①住まい方や着方について理解している。</p> <p>②日常着の手入れについて考え、工夫している。</p>	<p>①住まい方や着方について、「持続可能な社会」の視点から問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>②解決策を考え、実践・評価・改善することで、課題を解決しようとしている。</p>	<p>①快適な住まい方や着方について取り組んだり振り返ったりして、生活を工夫し、実践しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全6時間）

学習活動	学習への支援	評価
<p>1・教科書のイラストをもとに、自分の衣・住生活の問題を出し合う。</p> <p>・SDGsの目標7、13を示し、「日常生活でどんな場面でエネルギーを使っているのかについて考えを書く。</p> <p>・題材のゴール「『エネルギーを無駄にしないで夏を快適にする方法』を見つけて提案しよう」を設定する。</p>	<p>・目標7、13について、エデュタウンSDGsの動画を一斉提示で視聴させる。</p> <p>・各自タブレットでの目標の内容を確認させる。</p>	<p>(ウ) ① (イ) ①</p>
<p>2○夏を快適に過ごす住まい方について調べる。</p> <p>・調べたことをワークシートに記入する。</p> <p>・通風実験による感じ方の違い、グリーンカーテン、すだれ、打ち水による温度の変化に着目する。</p>	<p>・調べる際に、テーマに分けられることや自分で要約して記入するよう声掛けする。</p> <p>・グループ毎に意見をまとめて発表させる。</p>	<p>(ウ) ①</p>
<p>3○夏を快適に過ごす着方について調べる</p> <p>・布の素材の特徴と暑さの原因を調べる実験を通して、衣服の素材や湿度によって涼しさに違いがあることをとらえる。</p> <p>・衣服の汚れに応じた洗い方とともに洗剤の量と汚れの落ち方から洗剤の軽量の必要性を理解する。</p>	<p>・グループで活動し、実験後共有させる。</p>	<p>(ア) ① ②</p>
<p>4・自分の生活に合わせて、快適に過ごすために必要なことを考える。</p>	<p>・自分の生活環境をもとに家庭で実践できることを考えさせる。</p>	<p>(イ) ①②</p>
<p>5・SDGsの視点を取り入れ、夏休みを快適に過ごす提案をカードにまとめ、クラスの掲示物に仕上げる。</p> <p>・学校内に掲示し、学校全体によびかける。</p>	<p>・グループ毎にテーマに分け、提案する理由を明確にして書かせる。</p>	<p>(ウ) ①</p>

6. 本時案

(1)本時の目標

- ・夏に適した衣服について関心を持ち、すずしい着方について関心をもつ。
- ・布地の素材の特徴、暑さの原因を知る。
- ・暑い夏を涼しく過ごせる日常着の着方がわかる。

(2)展開

	学習活動	教師の支援と指導	評価
導入	1. 夏に涼しく着る方法を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">夏に涼しく着る工夫を考えよう ～素材の特徴・暑さの原因を調べよう</div>	・衣について学習することを確認させる。 ◎実物（夏物）を見せて考えさせる。 ◎襟ぐりや袖ぐりを大きくすれば風が通って涼しくなることに気付かせる。	(イ) ①
展開	2. 数種類の布地の通気性を調べる実験を行う。 ①吸水性・質感実験 それぞれの生地を同じ時間水にひたし、事前事後の重さの変化や質感を調べる。 ②通気性実験 ①と同じ生地をラップの芯の片端にゴムでとめ、もう片端から息を入れて風の通り方を調べる。 ③靴下の効果検証実験 片方は裸足、もう片方は靴下の状態でビニール袋に足を入れてゴムでとめ、上履を履く。靴下（綿）の吸水性や履き心地の役割を知る。 ④襟口特別服の実験 レインコート（100均）を、襟口を広げ、腰回り をそのまま着た時と、襟口を小さくしめ腰回りをひもでとめて着た時の違いからわずかな違いで起きる着心地の悪さや暑さに気付く。 ⑤湿度調節特別室 布カバー付きのハンガーラックに水で濡らしたタオルを入れて湿度に着目させ、外の部屋とどちらが快適か感じさせる。 結果とわかったことをワークシートにまとめる。	●形や布地について考えて発表できたか。 用意する物 ①Tシャツ・タオル・ポリエステル生地を同じ大きさに切ったもの ②ラップの芯 ③ビニール袋 ④レインコート ⑤布カバー付きハンガーラック	(ウ) ①
まとめ	3. 夏に適した衣服の着方をまとめる。 4. 自分の着方を振り返って発表する。	◎グループで分担して実験させ、結果を後で共有するために、他のグループに伝わる表現をするよう指導する。	(イ) ① ②

7. 成果と課題（成果（○）と課題（▲））

- 本単元に興味をもち、家庭で実践している児童が多かった。
- それぞれの生活環境をもとに、実践できそうなことを考える活動は、他の単元にも生かせることができた。
- 実験を取り入れることで、より理解が深まり、まとめに向けて意欲的に取り組めた。
- ▲掲示物作成からさらに広げて発表できる機会があればよかった。

暑い季節を気持ちよく過ごす工夫をイラストから見つけよう

- 帽子をかぶっているよ
- 男の子が水筒を持っている
- そうめんを食べている
- 半袖を着ている
- 木陰に入っている人がいる

みつめる

SDGs のゴール7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）と、13（気候変動に具体的な対策を）の目標の内容を確認した上で、日常生活ではどんな場面でエネルギーを使っているか。

ほとんどエアコンだけにたよっているなあ

エアコンだけに頼らないで夏を快適に過ごす方法を調べてみよう

しらべる

- ・入り口は狭く出口は広めに窓を開けて風通しをよくする。
- ・風鈴や鹿威しの音を聞く。 ・ミントの香りをかぐ。
- ・見た目に涼しく感じるものを取り入れる。（金魚など）
- ・扇風機の後ろに保冷剤を置く。
- ・枕カバーを寝る前までラップに包んで冷凍庫に入れておく。
- ・家を出る前にカーテンをしめて日光が部屋に入らないようにする。
- ・グリーンカーテンをする。 ・すだれをつるす。 ・打ち水をする。
- ・衣服の手入れを適切にする。
- ・衣服の素材や形を工夫する。（薄着、綿のシャツ）
- ・夏野菜を食べる。 ・かき氷やそうめんを食べる。
- ・首に冷たいタオルをかける。
- ・保冷剤を使う。

どうろう？

実験して確かめてみよう

学校や家で試してみよう

おじいさん、おばあさんに聞いてみよう

風鈴の音は気分がとっても爽快になってすずしく感じましたよ

グリーンカーテンがあると気温が下がるんだね

窓の開け方で風の通り方の違いがあるなあ

昔はエアコンがなかったからいろんな工夫をしていたんだな

ふかめる

自分の生活に合わせて夏を快適に過ごすために必要なことは何だろうか？

私の家には庭があるから打ち水をしてみよう

自分の部屋がとても日当たりがよいのでカーテンが有効かな

寝る時は兄と同じ部屋だから相談してみよう

うちはマンションだから窓の開け方を工夫しよう

ひろげる

学習したことを発信しよう

- ・シャワーを出しっぱなしにしない。
- ・歯磨きするときはコップを使う。
- ・まめにコンセントを抜いたり電源を切ったりする。
- ・無駄なものを買わない。
- ・なるべくごみを出さない。
- ・汚れを先に取り除いて食器を洗う。
- ・冷蔵庫の開閉を少なくする、省エネカーテンをつける。
- ・暖房便座の設定温度を下げる。

毎日の生活でちょっと気を付けるだけでできることがたくさんあるんだな

もっと多くの人が意識出来たらいいのにな